

地域・読者



島根県江津市・曹洞宗岩瀧寺の井田昭彦副住職(40)は、地元「県立少年自然の家」に勤務しながら、自然体験と仏教を組み合わせた布教を自坊で行い、同寺の「ファン」を増やしている。

自然豊かな土地で育ったが、自然の素晴らしさを改めて感じたのは専門僧堂のこと。畑仕事や道場の修繕などを修行とする直歳寮での体験が大きかったという。井田副住職は「『正法眼蔵』には溪声山色とあり、自然から仏の真理を学ぶことができる。自然と仏教の教えは深くつながっている」と説明する。

自坊では子どもたちを集めて様々な自然体験を

自然体験取り入れ布教

キラリ
頑張る 宗教者

島根県江津市・曹洞宗岩瀧寺

井田 昭彦副住職

コロナだからこそ価値

催す。近くにある滝を登る「タキッズ修行キャンプ」もその一つ。毎年9

月に1泊2日で、20人を超す子どもたちが参加。滝登りをする班と食事を作る班の二手に分かれ、2日目は役割を交代する。

滝登りは命綱を着けて滝の脇の崖を上流まで上がり、途中、ウォーターライターなどを楽しむ。一方の食事を作る班は鉢鉢で食材を集め、カレーなどを作り、滝登り班の帰りを待つ。こうした体験から子どもたちには、一緒に挑戦する仲間存在や食事を作ってもらったことへの感謝、食材を無償で分けてもらえる

コロナ前には20人を超す子どもたちが滝登りや鉢鉢等を体験したタキッズ修行キャンプ

ために全然知らない大人がお金を出してくれる。資本主義以外の考え方があることを伝えたい」と語る。

昨夏は地域の夏祭りが軒並み中止になったが、同寺は感染防止対策をした上で8月に盆踊り、簡易的な打ち上げ花火を行った。そこには涙を流して喜ぶ子どもたちの姿があった。「コロナを理由に大変なことから逃げてばかりではいけない。やらないのは簡単だが、できるような方法を考え、今やることこそ価値がある。今年こそみんなでタキッズ修行キャンプをしたい」と語り、多くの子どもたちの参加を心待ちにしている。

(赤坂史人)

このありがたさを感じてほしいという。いずれもお金では買えない価値観。昨年はコロナ禍を鑑み、家庭単位での滝登りのみを引き受けた。

近年は子どもたちからは参加費をもらわず、同寺の思いに共感する人から寄付を募り、運営費用に充てている。

どの子どもにも平等に参加してほしいとの井田副住職の思いがある。「対価としてのお金が必要な現代社会で、自分の